

&lt;第41回調査&gt;

2012年10月29日

**【本調査の目的】**

2009年6月の第1回調査を皮切りに、(株)外為どっとコムは、口座開設者のお客様を対象として、「投資動向等に関するアンケート調査」を毎月定期的を実施しておりましたが、2010年8月の第15回調査より、その名称を「外為短期投資動向調査(略称:外為短観)」に改めました。本レポートは、同調査の結果に基づき、(株)外為どっとコム総合研究所がその一部を取りまとめるという形で対外的に公表するものです。

近年の外国為替市場において、本邦の外国為替保証金取引への関心が強まっているのは周知の通りですが、その実像を把握するのに必要な統計データ等の整備は、既存のマクロ経済データや金融関連データなどに比べて、遅れているのが実情です。今後こうした調査を継続的に実施することで、時系列で比較した個人投資家層の相場感の変化や投資家属性別の投資動向の特徴などを精査し、当社の調査研究活動の深化につなげるとともに、その一部を社会に還元することが、本調査の目的です。

また、本調査におきましては、国内外の市場参加者が注目する各種イベント前後の時期に、不定期のアンケート調査の結果も公表いたします。定点観測の調査結果と合わせて、ご参考にして頂ければ幸いです。

**【調査実施期間】**

2012年10月16日(火)13:00~2012年10月23日(火)13:00

※毎月中旬から下旬にかけての1週間を調査期間としています。

**【調査対象】**

(株)外為どっとコムの『外貨ネクスト』に口座を開設のお客様層

**【調査方法】**

(株)外為どっとコムの取引画面内にアンケートを公開。

今回の有効回答数は1682件。

※必要項目を全て入力して回答して頂いたお客様を「有効回答数」としました。

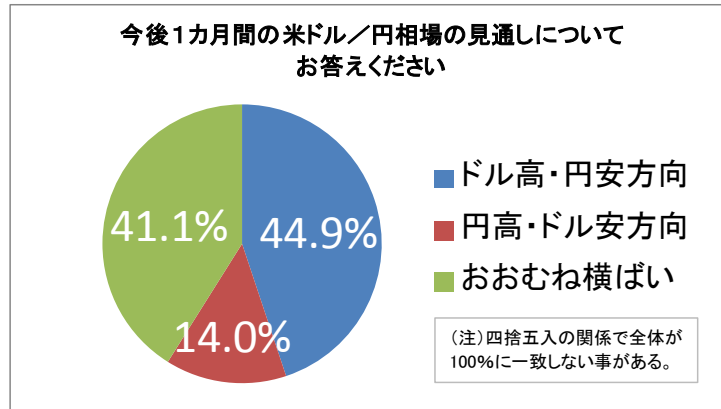
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【第41回調査結果略報：ドル高・円安姿勢が強まる】

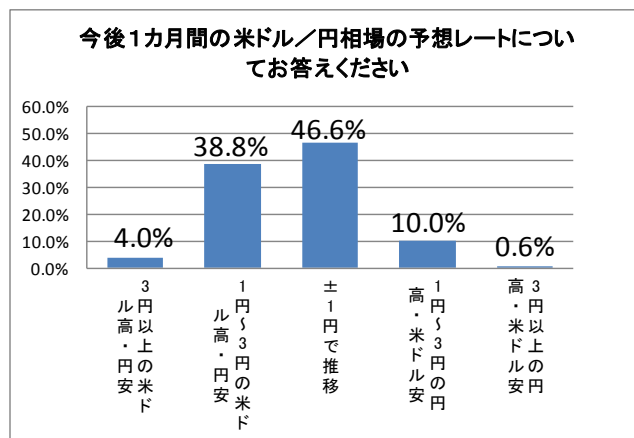
問1：今後1カ月間の米ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の米ドル/円相場の見通し」については、「ドル高・円安方向」と答えた割合が44.9%であったのに対し、「円高・ドル安方向」と答えた割合は14.0%となった。この結果「米ドル/円予想DI」は+30.9%ポイントとなり、前月の円高・ドル安予想優勢(▲3.1%ポイント)の状態から一転してドル高・円安予想に傾いた。調査期間中のドル/円相場は、本邦企業による米国企業の買収に絡むフローに対する思惑や、日銀の追加緩和に対する期待などを背景に円安・ドル高が進行。79円台前半の上値の重さを払拭して値を上げたことで、FX投資家のマインドもドル高・円安の方向に大きく傾いたようだ。ただ、「おおむね横ばい」とみる向きも非常に多い。ドル円相場が一気に上昇したことで、一旦は上値を抑えられる局面に入ると見ている投資家も多いようだ。※過去のドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。



問2：今後1カ月間の米ドル/円相場の予想レートについてお答えください

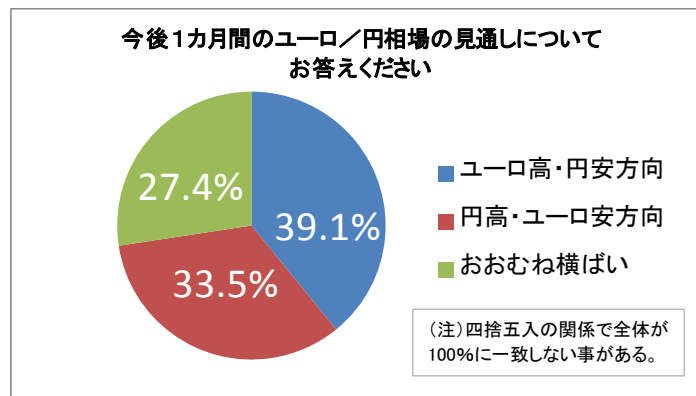
「今後1カ月間のドル/円相場の予想レート」については、「±1円で推移」が46.6%と最も多く、次いで「1円～3円のドル高・円安」が38.8%、「1円～3円の円高・ドル安」が10.0%、「3円以上のドル高・円安」が4.0%、「3円以上の円高・ドル安」が0.6%の順となった。ヒストグラムの形状はドル高・円安側に傾いている。こう着状態にあった相場が急に動き出したことで、FX投資家の間では「ドル高・円安もそろそろ一服するのでは？」とみる層と「この流れはさらに進むのではないか」とみる層に分かれたようだ。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

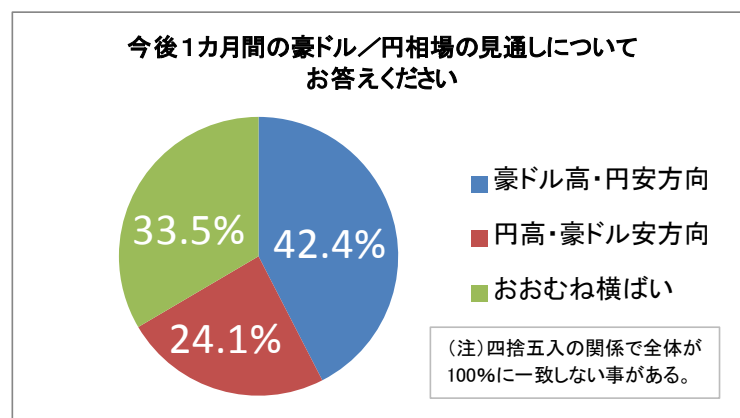
### 問3: 今後1カ月間のユーロ/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間のユーロ/円相場の見通し」については、「ユーロ高・円安方向」と答えた割合が39.1%であったのに対し、「円高・ユーロ安方向」と答えた割合が33.5%となった。この結果「ユーロ円予想DI」は+5.6%ポイントとなり、6カ月連続の円強気・ユーロ弱気姿勢がとうとう反転した形となった。調査期間中のユーロ/円相場は、前半こそドル/円の上昇に連れて値を上げたものの、期間後半に入ると株安に上値を抑えられた。ドル/円ほど方向感が出なかったことが、上昇した割にFX投資家の目先の相場見通しのマインドにバラツキをもたらした要因ではないかと推察する。  
※過去のユーロ円予想DIの推移はP8-9に掲載。



### 問4: 今後1カ月間の豪ドル/円相場の見通しについてお答えください

「今後1カ月間の豪ドル/円相場見通し」については、「豪ドル高・円安方向」と答えた割合が42.4%であったのに対し、「円高・豪ドル安方向」と答えた割合は24.1%となった。この結果「豪ドル/円予想DI」は+18.3%ポイントとなり、5カ月連続で豪ドル強気・円弱気姿勢を維持。予想DIのプラス幅は前月の+13.0%ポイントから拡大した。調査期間中の豪ドル/円相場はドル/円の上昇が追い風となったものの、その後は主要国株価や資源価格の弱さが重石となった。また、豪州の追加利下げ観測がくすぶり続けている点も上値を抑える一因となった可能性がある。ただ、こうした状況もFX投資家の豪ドル強気見通しを後退させるには至らなかったようだ。  
※過去の豪ドル円予想DIの推移はP8-9に掲載。

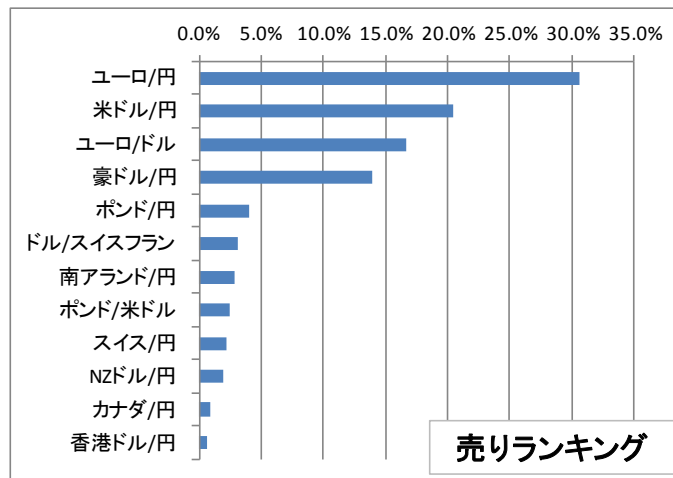
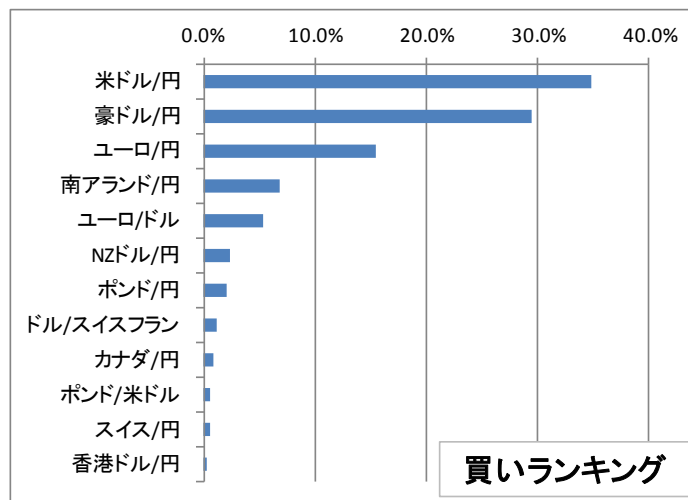


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

問5: 今後、注目の通貨ペアについてお答えください

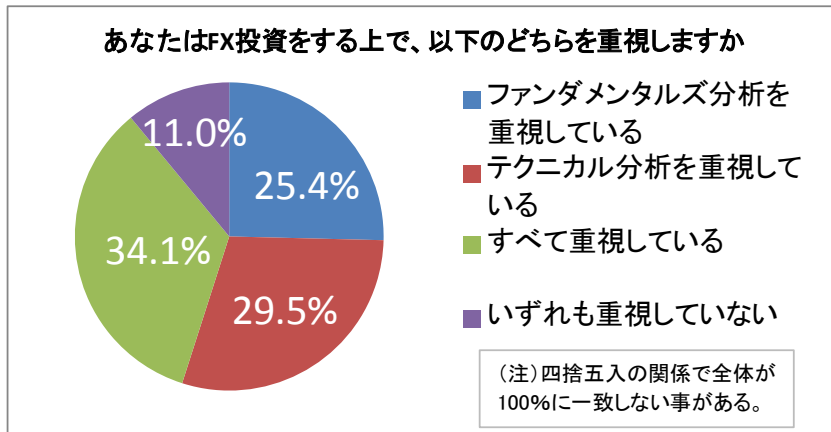
「今後注目している通貨ペア」について尋ねたところ、「買い」で注目されている通貨ペアは、1位米ドル/円(34.9%)、2位豪ドル/円(29.4%)、3位ユーロ/円(15.5%)、4位南アランド/円(6.9%)となった。一方、「売り」で注目されている通貨ペアは、1位ユーロ/円(30.6%)、2位米ドル/円(20.5%)、3位ユーロ/ドル(16.7%)、4位豪ドル/円(13.9%)となった。「買い」で注目の上位4通貨ペアについては、豪ドル/円と米ドル/円の順位が逆転した形になった。これは、足元の中国経済の減速懸念や豪州の利下げ観測、資源価格の軟調ぶりなどが重石となって豪ドル/円が伸び悩んだ一方、直近で浮上した円売り材料をダイレクトに反映した米ドル/円が伸びた点が大いと考えられる。また、南アランド/円が今回、ユーロ/ドルに替わって4位に浮上している。これは、国内の社会不安を背景に月初に大きく下落した反動で比較的堅調に推移している点が注目されたものと見る。一方、「売り」で注目の通貨ペアについては、順位は前月と変わらずだ。ただ、米ドル/円への回答割合が目立って小さくなった(27.9%→20.5%)。これは、「当面はドル高・円安、もしくは横ばいになる」と見ているFX投資家層が多い、という問1、問2の結果が反映されたものと見る。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

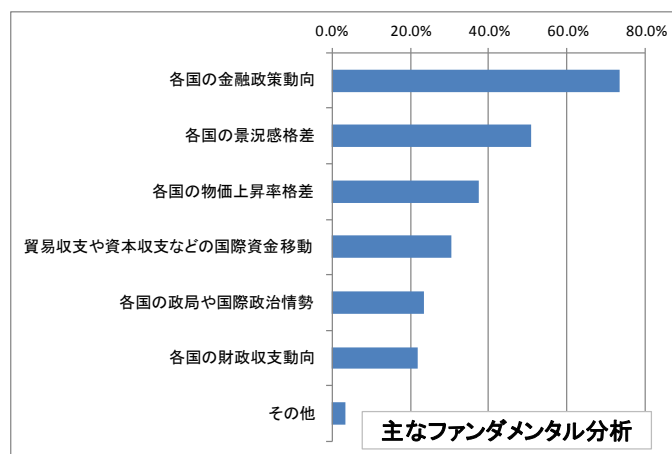
**問6: あなたはFX投資をする上で、以下のどちらを重視しますか?**

「FX投資の際に重視する分析手法」については、「ファンダメンタルズ分析を重視」と答えた割合が25.4%であったのに対し「テクニカル分析を重視」と答えた割合が29.5%という結果となった。また「すべて重視している」と答えた割合が34.1%と引き続き最も多かった。前月に比べてテクニカル分析重視派(前月:31.4%)がやや減少し、ファンダメンタルズ分析重視派が小幅に増えた(前月:23.2%)のは、調査期間中に日本の追加緩和観測や格下げ懸念、企業買収関連の報道で相場が動いたためかもしれない。



**問7: ファンダメンタルズ分析では何を主に活用していますか? (いくつでも)**

「ファンダメンタルズ分析で主として活用する相場変動要因」について複数回答可として尋ねたところ、「各国の金融政策動向(73.5%)」と答えた割合が最も多く、「各国の景況感格差(50.9%)」、「各国の物価上昇率格差(37.5%)」、「貿易や資本収支等国際資金移動(30.4%)」、「各国の政局や国際政治情勢(23.4%)」、「各国の財政収支動向(21.9%)」、の順に続いた。今回も「各国の金融政策動向」が他を大きく引き離して7割を超える回答割合を集めており、この傾向は調査開始以来変わらない。一方で「各国の財政収支」に注目する割合は前回(18.4%)に比べるとやや改善した。ただ、依然として今年2月の第33回調査で記録した42.3%の半分程度の水準であり、欧州債務問題に対するFX投資家の懸念が後退しているものと考えられる。

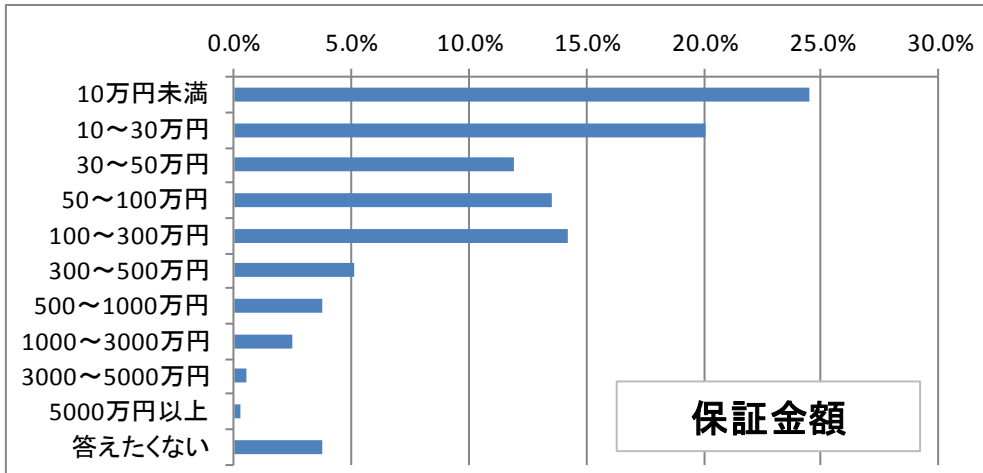


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

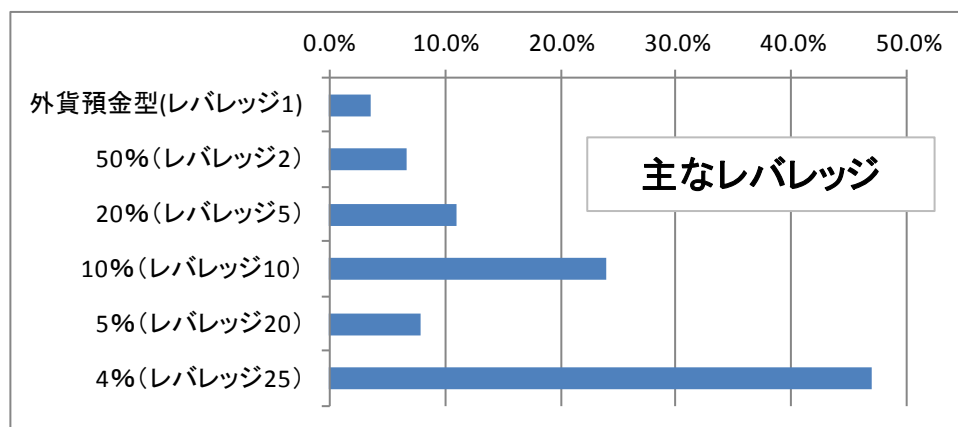
問8:FX取引の際の取引保証金の額についてお答えください(ひとつだけ)

「FX取引の際の保証金の額」について尋ねたところ、「10万円未満」と答えた割合が24.5%と最も多く、以下「10～30万円(20.0%)」、「100～300万円(14.2%)」、「50～100万円(13.5%)」、「30～50万円(12.0%)」、と続いた。7割ものFX投資家(合算割合で70.0%)が100万円以下の保証金で取引を行っており、最大レバレッジが25倍である点を考慮すると比較的小口の取引が主流である事がわかる。世界の為替市場で無視できない規模にまで成長している本邦FX投資家は、こうした小口取引の集合体である可能性が極めて高いと言えるだろう。改めてFX投資家の裾野の広さを感じさせる結果となった。



問9:FX投資の際、主に何倍のレバレッジを活用していますか？(ひとつだけ)

「FX投資の際に主として活用している保証金率(レバレッジ)」について尋ねたところ、「4%(レバレッジ25)」と答えた割合が46.8%と最も多く、「10%(レバレッジ10)」が24.0%、「20%(レバレッジ5)」が11.0%と続き、以下「5%(レバレッジ20)」が8.0%、「50%(レバレッジ2)」が6.7%となった。合算割合で7割以上のFX投資家が10倍以上のレバレッジを選択しており、FXの最大の特徴のひとつである高レバレッジを活かして取引する投資家が大半を占めていることがわかる。なお、今回調査におけるFX投資家が主に活用するレバレッジの平均は約16.8倍であり、前月の16.2倍からやや上昇している。

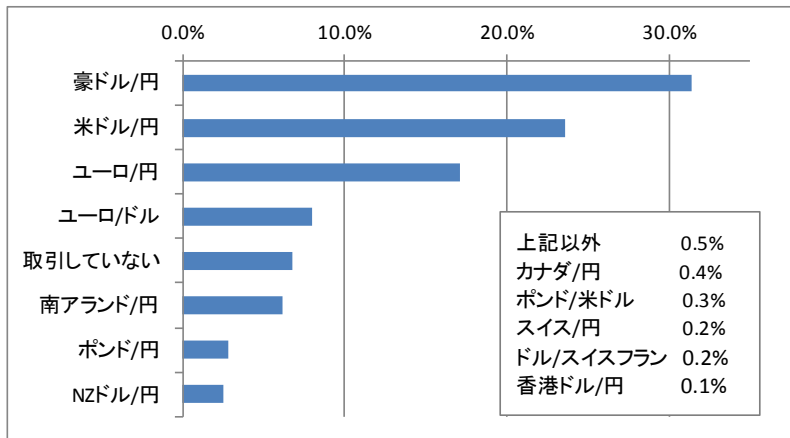


本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。



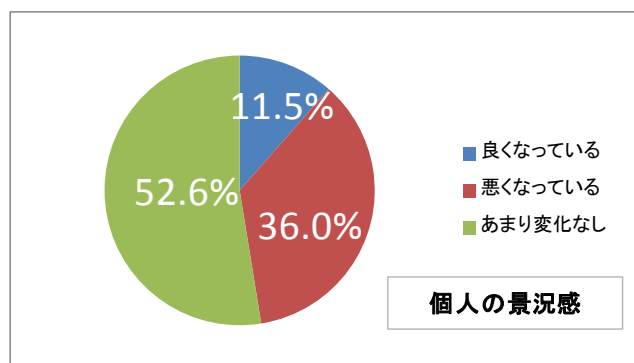
問10: 2012年1月からこれまで、新規注文をしポジションを持った通貨ペアについて、合計してもっとも取引量が多かった通貨ペアは何でしょうか(ひとつだけ) またコメント欄に、その理由をお書きください。

今月の特別質問項目として、「2012年1月からこれまで、新規注文をしポジションを持った通貨ペアについて、合計してもっとも取引量が多かった通貨ペアは何でしょうか(ひとつだけ)」と尋ねたところ、「豪ドル/円」と答えた割合が31.4%と最も多く、以下「米ドル/円(23.5%)」、「ユーロ/円(17.1%)」、「ユーロ/ドル(8.0%)」と続いた。豪ドル/円については、「値幅が大きい」「よく動く」「スワップポイントが大きい」などの理由が挙げられた。また、2位の「米ドル/円」については「情報量の多さ」や「スプレッドの狭さ」を理由に挙げるFX投資家が多く、3位、4位のユーロに関しては「値動きの大きさ」「トレンドの分かりやすさ」などを挙げる声が目立った。



問11: あなた個人の「景況感」はいかがですか？(ひとつだけ)

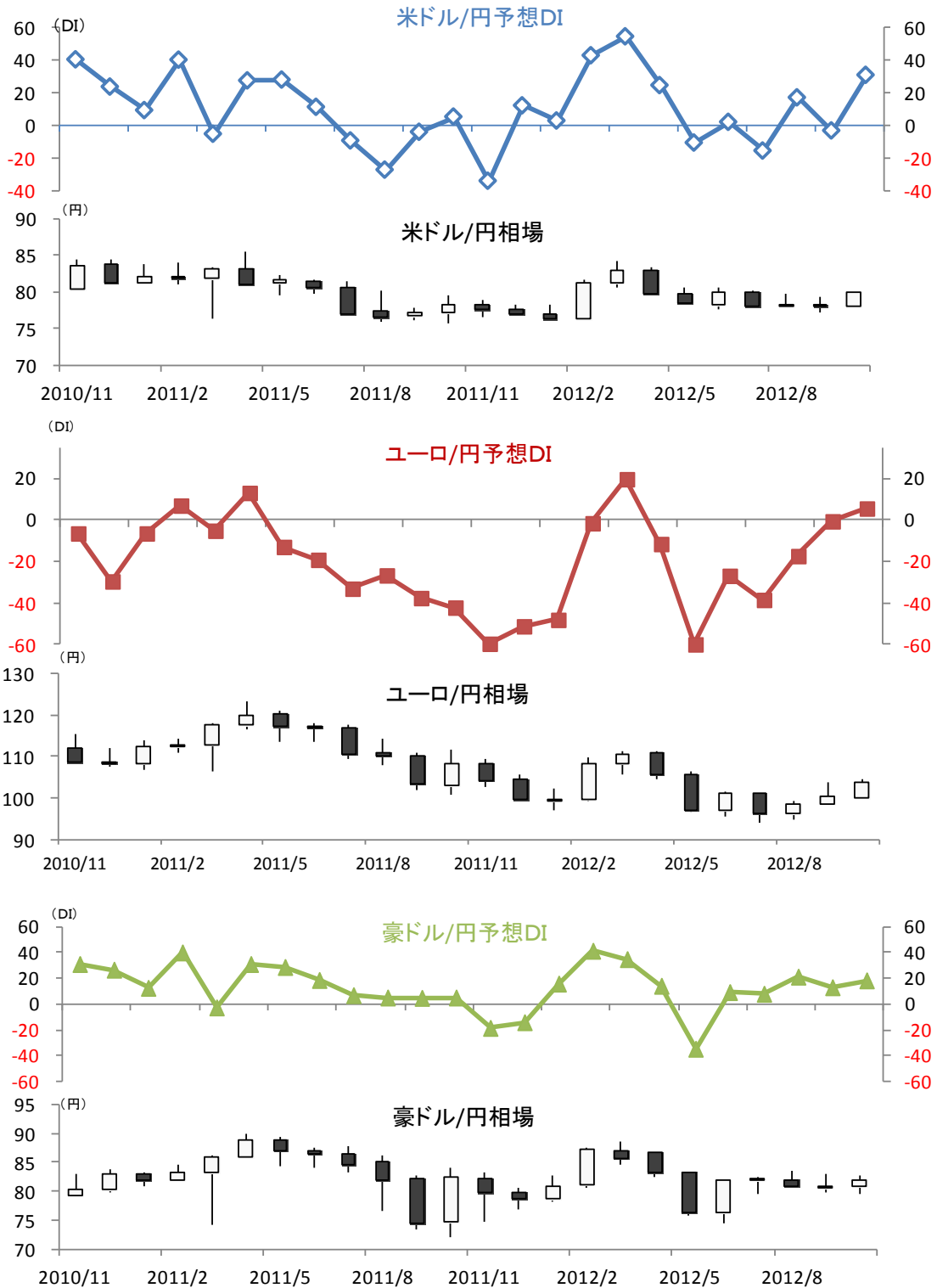
今月のもうひとつの特別質問項目として、あなた個人の「景況感」はいかがですか？と尋ねたところ、「あまり変化なし(52.6%)」が圧倒的に多く、以下「悪くなっている(36.0%)」「良くなっている(11.5%)」と続くなど、依然として厳しい結果になった。ただ、7月に行った同じ調査の際は「悪くなっている」が43.0%だったことを考えると、一段の景況感悪化となっている割合は減少している可能性がある(7月調査:「あまり変化なし」は48.7%、「良くなっている」は8.3%)。7月調査時はドル/円は円高が進行中で、日経平均株価なども軟調だった。しかし、足元ではドル/円は80.00付近まで値を上げ、株価も比較的落ち着いており、ひとところの危機感はやや和らいだのかもしれない。



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

【付表:主要3通貨ペア予想DIと月足の推移】



本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com



## 【今後の調査実施計画及び公表方針】

本調査も第41回目となりました。調査開始から3年以上が経過し、前月との対比での時系列比較だけでなく、前年同期との比較も可能になってきました。今後についても、毎月定点観測で実施する調査結果を基に、予想DIの時系列比較等から見出せるFX投資家の相場観の変化やその傾向などの把握を進めていきたいと考えています。

なお、毎月の本調査においては、公表扱いとしている質問項目及び回答結果の他に、「投資家の属性」、「取引頻度」、「取引規模」、「取引時間帯」、「投資選好」など、投資家実態を把握するために必要な各種の質問項目も設けて集計しています。それらの回答結果を用いた投資家の実態報告や属性別のクロス・セクション分析等については、当研究所が1年に1回、毎年年初以降に公表する「外為白書」で紹介する予定です。

## 【付表：主要3通貨ペア予想DIの推移】

		米ドル／円			ユーロ／円			豪ドル／円		
		米ドル高	米ドル安	DI	ユーロ高	ユーロ安	DI	豪ドル高	豪ドル安	DI
2010年	11月	57.4	17.0	40.4	28.2	34.6	-6.4	48.0	17.0	31.0
	12月	42.9	19.2	23.7	19.2	48.7	-29.5	44.0	17.4	26.6
2011年	1月	33.0	23.7	9.3	31.8	38.2	-6.4	37.3	24.8	12.5
	2月	53.2	13.0	40.2	33.6	26.6	7.0	54.8	14.8	40.0
	3月	38.7	43.9	-5.2	35.1	40.2	-5.1	37.7	40.4	-2.7
	4月	48.2	20.7	27.5	43.8	30.7	13.1	51.0	20.0	31.0
	5月	44.3	16.3	28.0	29.4	42.3	-12.9	47.7	19.0	28.7
	6月	33.4	22.1	11.3	25.2	44.3	-19.1	41.2	22.6	18.6
	7月	29.4	38.7	-9.3	22.3	55.3	-33.0	36.2	29.4	6.8
	8月	18.1	45.3	-27.2	20.8	47.4	-26.6	36.3	31.3	5.0
	9月	23.9	27.9	-4.0	21.0	58.5	-37.5	36.4	31.7	4.7
	10月	26.3	21.0	5.3	19.4	61.5	-42.1	40.0	35.0	5.0
	11月	14.5	48.5	-34.0	12.1	71.6	-59.5	26.3	44.9	-18.6
	12月	30.2	18.0	12.2	13.5	64.6	-51.1	27.1	41.3	-14.2
2012年	1月	25.0	22.1	2.9	17.9	65.9	-48.0	40.5	24.7	15.8
	2月	57.4	14.5	42.9	36.1	37.6	-1.5	59.1	17.8	41.3
	3月	67.0	12.5	54.5	43.4	23.7	19.7	52.5	17.7	34.8
	4月	45.1	20.5	24.6	29.8	41.3	-11.5	40.8	26.7	14.1
	5月	25.9	36.5	-10.6	11.7	71.5	-59.8	21.2	56.0	-34.8
	6月	30.9	28.8	2.1	27.3	54.1	-26.8	41.0	31.8	9.2
	7月	18.4	33.9	-15.5	19.7	58.1	-38.4	36.6	28.7	7.9
	8月	36.1	19.0	17.1	27.4	44.7	-17.3	43.0	21.8	21.2
	9月	27.9	31.0	-3.2	38.7	39.2	-0.6	40.2	27.2	13.0
	10月	44.9	14.0	30.9	39.1	33.5	5.6	42.5	24.2	18.3

本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2012 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com